

科目名	持続性学特論	配当年次	1	単位数	2
科目区分	環境経営科目群（研究科共通）	履修区分	選択必修		
教員名	荒田 鉄二	開講区分	前期		
授業の概要	<p><b>キーワード： 人工生態系、持続性、環境政策の公準</b></p> <p>人工生態系と自然生態系が永続的に共存する状態を持続可能な状態と捉え、自然生態系の機能と持続性の根源、地球システム内における人工生態系の熱力学的位置づけ、「強い持続性」および「弱い持続性」等の持続性の諸概念、持続性の評価指標、持続可能な発展の促進方策について学ぶ。</p>				
到達目標 (ルーブリック評価項目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人工生態系としての人間社会が持続するために必要な条件を理解する。</li> <li>・持続可能な方向に社会を誘導するための環境政策の公準を理解する。</li> </ul>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 持続可能な発展に関する現代思想の様相</li> <li>② 経済理論と持続可能な発展</li> <li>③ 定常状態の経済への移行</li> <li>④ 最適規模の環境マクロ経済学</li> <li>⑤ 消費：付加価値、物理的変換および福祉</li> <li>⑥ 政策の運用と持続可能な発展</li> <li>⑦ 自然資本への投資</li> <li>⑧ 環境的に持続可能な発展の促進方策</li> <li>⑨ 国民勘定と持続可能な発展</li> <li>⑩ 持続可能な国民純生産の尺度</li> <li>⑪ 持続可能な発展と国民経済計算</li> <li>⑫ 人口と持続可能な発展</li> <li>⑬ 国際貿易と持続可能な発展</li> <li>⑭ 自由貿易とグローバル化 vs 環境と共同体</li> <li>⑮ 調整から持続可能な発展へ</li> </ol>				
評価方法	講義で説明した内容の理解の程度、基礎的知識を正しく理解しているかどうかに重点をおく。ルーブリック（50%）、期末ポート（50%）				
講義外での学習	教科書を事前によく読んでくること。担当の回のレジュメを作成すること。				
履修上の注意事項	毎回必ず教科書を持参すること。 ※先修科目：なし				
教材	<p>◆教科書： 持続可能な発展の経済学（ハーマン・デイリー、みすず書房、ISBN4-622-07174-6）</p> <p>◆参考書： エントロピー法則と経済過程（N. ジョージエスケレーゲン、みすず書房、ISBN4-622-03791-2）</p>				

科目名	地域計画学特論	配当年次	1	単位数	2
科目区分	環境経営科目群 (研究科共通)	履修区分	選択必修		
教員名	山口 創	開講区分	後期		
授業の概要	<p><b>キーワード：地域計画、地域資源管理、内発的発展</b></p> <p>本講義では、地域計画の基礎ならびに、地域の持続的な発展を支える現代的な地域資源の利用、管理の在り方について講義する。地域計画学、地域資源管理学に関する文献の輪読や具体的事例を通して、土地利用、水資源の利用、環境保全の基礎について学ぶ。また、各自が関心を持つ地域課題を対象に論文レビューをおこない、その問題の構造や解決に向けた方策について議論する。</p>				
到達目標 (ルーブリック評価項目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の地域計画体系および地域計画研究の動向について理解する。</li> <li>・地域が抱える問題の構造や課題解決の方策について考える基礎を身に付ける。</li> </ul>				
授業計画	<p>① オリエンテーション</p> <p>② ～⑤ 地域計画学に関連する文献の輪読をおこない、地域計画の基礎を身につける。具体的には、現在の地域社会が抱える課題を概観し、空間・環境・景観計画、社会・コミュニティ計画、経済計画の内容と方法について学ぶ。また、ヨーロッパを中心に海外における地域計画についても概観する。 輪読に用いる文献は、農村計画学（千賀祐太郎編著）、改定農村計画学（改定農村計画学会編集委員会編 農業土木学会）を予定している。</p> <p>⑥～⑩ 地域資源管理に関連する文献の輪読をおこない、現代的な地域資源の利用、管理の在り方について学ぶ。 具体的には、土地利用、水資源の利用、自然資源の保全、文化・伝統や地域固有知識の継承の実態と管理の方策について学ぶ。また、地域資源を活用したコミュニティビジネスの創出など地域活性化との関連についても学ぶ。 輪読に用いる文献は、地域資源管理学（目瀬守男編著）、農山村再生の実践（小田切徳美編著 農山漁村文化協会）を予定している。</p> <p>⑪～⑮ 各自が関心をもつテーマを選び、論文レビューをおこなう。レビューの内容は授業内で発表し、問題の構造や今後必要とされる施策について議論する。</p>				
評価方法	<p>講義で説明した内容や輪読する文献の内容を正しく理解できているかを重視する。ルーブリック 50%、授業における発表（輪読担当、論文レビュー）50%で評価。</p>				
講義外での学習	<p>事前学習として、輪読部分の読み込みが必要。また、毎回の授業では、担当者に輪読部分もしくは課題論文の発表を課す。</p>				
履修上の注意事項					
教材	<p>◆<b>教科書</b>：農村計画学（千賀祐太郎編著 朝倉書店）、改定農村計画学（改定農村計画学会編集委員会編 農業土木学会）、地域資源管理学（目瀬守男編著 明文書房）、農山村再生の実践（小田切徳美編著 農山漁村文化協会）など。</p> <p>◆<b>参考書</b>：講義中に紹介する。</p>				

科目名	人間環境システム論	配当年次	2	単位数	2
科目区分	環境経営科目群 (研究科共通)	履修区分	選択必修		
教員名	石井 克典	開講区分	前期		
授業の概要	<p><b>キーワード：人間情報処理 環境心理 環境知覚</b></p> <p>人間は自らを取り巻くあらゆる環境との相互作用によって社会的営みを行っている。人間環境システム論では、生物・地球・宇宙などから成る自然系システムに限らず、モノ・情報・社会などから成る人工系システムも含め幅広い視点から人間中心の環境を考える。本講義では環境情報が持つ入力・処理・蓄積・出力・流通の構造を講述することに主眼をおき、環境を系統的に理解して持続可能な社会をデザインすることを目標とする。さらに、人間の生体・感情などの情報を可視化する技術について触れ、人間の身体・認知・心理などの特性に適合するような環境適応システムの実現について議論する。講義の進度に応じて適宜研究課題に取り組み、理解を深化させる。</p>				
到達目標 (ルーブリック評価項目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの研究テーマを系統的な観点から俯瞰できる理解力を身につける。</li> <li>・人間感性や環境心理に基づく実践的な環境総合デザイン力を身につける。</li> </ul>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション, 人間情報処理機能と環境【テキストA】</li> <li>② 視聴覚環境と人間工学【テキストA】</li> <li>③ 生体信号による環境評価【テキストA】</li> <li>④ 感性の情報化と多変量解析【テキストB】</li> <li>⑤ 感性とデザイン【テキストB】</li> <li>⑥ 環境知覚と環境認知【テキストC】</li> <li>⑦ 環境評価と査定【テキストC】</li> <li>⑧ パーソナリティと環境【テキストC】</li> <li>⑨ パーソナルスペースとテリトリアリティ【テキストC】</li> <li>⑩ クラウドイングとプライバシー【テキストC】</li> <li>⑪ 住居・都市の環境心理【テキストC】</li> <li>⑫ 教育・オフィスの環境心理【テキストC】</li> <li>⑬ 自然・天然資源管理の環境心理【テキストC】</li> <li>⑭ 受講者による調査研究</li> <li>⑮ 発表・討議</li> </ol>				
評価方法	<p>議論に対する姿勢や理解度などにより評価する。進度に応じて、レポートや演習課題による理解度の確認を行うこともある。</p> <p>ルーブリック (40%)、課題レポート (30%)、毎回の演習課題 (30%)</p> <p>※ルーブリック評価：到達目標に関する理解度、授業参加態度・修学意欲</p>				
講義外での学習	<p>講義中に実施する演習課題を確実に解けるよう復習を行い、講義内容の理解を深めるようにすること。</p>				
履修上の注意事項	<p>PC を用いて Excel, R などを用いた分析の演習をするので、時間外においても講義内容の復習や習熟に努め、不明な点は教員に積極的に質問することが望ましい。</p> <p>「パソコン利用必須」</p>				
教材	<p>◆<b>教科書</b>：A) 福田忠彦：生体情報システム論，産業図書，ISBN4-7828-5303-3  B) 井口征士他：感性情報処理，オーム社，ISBN4-274-07774-8  C) R. ギフォード：環境心理学（上）（下），北大路書房，  ISBN978-4-7628-2448-7 ISBN978-4-7628-2564-4</p> <p>◆<b>参考書</b>：ヤコブ・ニールセン：ユーザビリティエンジニアリング原論，東京電機大学出版局，ISBN4-501-53200-9</p> <p>教科書・参考書は石井研究室蔵書であるため、受講者は必ずしも購入する必要はない。</p>				

科目名	環境経済特論	配当年次	1	単位数	2
科目区分	環境経営科目群 (研究科共通)	履修区分	選択必修		
教員名	石川 真澄	開講区分	後期		
授業の概要	<p><b>キーワード：市場の失敗、社会的費用、経済的手法による環境政策</b></p> <p>持続可能な社会の実現のためには、健全な環境を前提とした市場経済の構築が不可欠である。本講義では、環境問題を市場における経済活動との関連で理解し、標準的な経済理論の概念を用いて相互の関係を分析するとともに、持続可能な市場経済に求められる諸条件について考究する。また、市場の経済活動による環境への負荷を制御するために実施される各種の政策手法による、市場経済への効果や副次的な影響を分析し、比較・検討を行う。</p>				
到達目標 (ルーブリック評価項目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準的な経済理論に基づき、環境問題の経済学的構造を理解する</li> <li>・資源・環境管理政策と市場メカニズムの関連性を理解する</li> <li>・実際の環境問題や環境政策について環境経済学の知見を利用した議論ができる</li> </ul>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① イントロダクション 環境と経済との関係 1</li> <li>② 環境と経済との関係 2</li> <li>③ 公共財としての環境</li> <li>④ 環境問題と外部不経済</li> <li>⑤ コースの定理と自主協定</li> <li>⑥ 環境問題と権利および制度的側面 1</li> <li>⑦ 環境問題と権利および制度的側面 2</li> <li>⑧ 再生可能資源 1</li> <li>⑨ 再生可能資源 2</li> <li>⑩ 再生不可能性資源 1</li> <li>⑪ 再生不可能性資源 2</li> <li>⑫ 環境税 1</li> <li>⑬ 環境税 2</li> <li>⑭ 排出量取引 1</li> <li>⑮ 排出量取引 2</li> </ol>				
評価方法	<p>コースでの学習内容の理解や貢献度、課題の成績等を総合し、ルーブリック（40％）と、期末に実施するレポート（60％）により評価する。</p>				
講義外での学習	<p>教材に関する学習のほか、関連する文献について事前・事後の学習を求める場合がある。また、本科目の前提となる基礎的な経済学が未修の場合、各自での学習が必要である。</p>				
履修上の注意事項	<p>標準的な経済理論に基づく学部中上級レベルの環境経済学のテキストを講読するとともに、重要なトピックについては、関連する学術論文についても取り扱う。トピックとしては学部の同名の講義と類似しているが、学問的水準は異なる。また、受講者の学習歴や研究内容によっては、協議の上、上記内容の一部を変更することもあるので留意されたい。</p>				
教材	<p>◆教科書：別途指示する</p> <p>◆参考書：細田・横山 「環境経済学」 有斐閣</p>				

科目名	環境評価特論	配当年次	1	単位数	2
科目区分	環境経営科目群 (研究科共通)	履修区分	選択必修		
教員名	高井 亨	開講区分	後期		
授業の概要	<p><b>キーワード： 環境、指標、経済評価</b></p> <p>われわれを取り巻く自然環境は、人間社会の存立基盤として最も重要な役割を果たしている。人間にとって持続可能な社会を構築するためには、われわれを取り巻く自然環境の状態を適切に把握し制御することが求められる。そのためには環境の状態の定量的な把握が必要となる。また、自然環境から人間社会が恩恵を享受しつづけてゆくためには、その価値を経済的に評価することが有益なことがある（もちろんその価値は、本質的には無限に大きいはずである）。そこで本講義では、環境の状態を定量的に把握する方法として前半において持続可能性指標を紹介する。また後半では、環境の価値を経済的に評価する方法として、経済学や土木・環境工学において開発されてきた諸手法について紹介する。講義は、教科書・論文の輪読を中心に進める。受講者自らが関心をもつ環境について、実際に評価をおこなうことができるようになることが、最終目的である。</p>				
到達目標 (ルーブリック評価項目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境の多様な状態を、適切な指標によって把握する方法を理解する</li> <li>・環境評価手法を理解する</li> <li>・実際に環境評価を行うことができる</li> </ul>				
授業計画	<p>1. イントロダクション</p> <p>前半（各回で紹介する指標は変更がありうる）</p> <p>2. 持続可能な発展とその多様な目標</p> <p>3. 持続可能性を測る ①：エコロジカル・フットプリント、プラネタリー・バウンダリー</p> <p>4. 持続可能性を測る ②：環境効率指標・デカップリング指標</p> <p>5. 持続可能性を測る ③：人間開発指数・包括的富</p> <p>6. 持続可能性を測る ④：複合指標（統合指標）</p> <p>7. 環境指標に関する論文紹介</p> <p>後半（各回で紹介する手法は変更がありうる）</p> <p>8. 環境の価値評価の基礎理論</p> <p>9. 環境の価値評価①：トラベルコスト法</p> <p>10. 環境の価値評価②：ヘドニック法</p> <p>11. 環境の価値評価③：CVM</p> <p>12. 環境の価値評価④：コンジョイント分析</p> <p>事例研究（受講生による事例報告・評価実施例報告）</p> <p>13. 報告①</p> <p>14. 報告②</p> <p>15. 討論</p>				
評価方法	ルーブリック（15%）、受講態度（15%）、担当回のレジュメ内容（50%）、事例研究報告（20%）の割合で評価する。				
講義外での学習	各自の専門分野において、環境面に着目した定量的な評価事例に関心をもつ。				
履修上の注意事項	本講義では教科書の輪読や論文購読が中心となるため、予習・レジュメ作成が必要となる。				
教材	<p>◆教科書：特に定めない（必要な資料は配布する）</p> <p>◆参考書：「境経済評価の実務」大野栄治編著、勁草書房</p>				

科目名	計量経済学特論	配当年次	1	単位数	2
科目区分	企業経営科目群	履修区分	選択		
教員名	西村 教子	開講区分	後期		
授業の概要	<p><b>キーワード： データの取り扱い、回帰分析、分析結果の解釈</b></p> <p>世界中の数量的な情報が簡単に手に入るようになってきた。これらを適切に利用し、活用していく能力が必要とされている。計量経済学は数量的な情報を使った実証分析の強力なツールとして経済学分野だけでなく多くの研究分野でも取り入れられている。本講義は、今日の社会経済の諸課題について経済統計データを用いて数量的に理解し、実際に実証分析ができるようになることを目標にする。具体的には、経営学を学ぶにあたって必要となる手法である重回帰分析を中心に演習形式で学んでいく。</p>				
到達目標 (ルーブリック評価項目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計量経済学の基礎を理解する</li> <li>・ 統計ソフト(stata)を使いこなす</li> <li>・ 簡単な実証分析ができるようになる</li> </ul>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① イントロダクション</li> <li>② データの扱い方</li> <li>③ 計量経済学のための確率論：確率分布、確率変数</li> <li>④ 統計学による推論：統計的推論、標本平均、標本分散、仮説検定</li> <li>⑤ 統計学による推論：演習</li> <li>⑥ 単回帰分析：最小二乗法、決定係数</li> <li>⑦ 単回帰分析：演習</li> <li>⑧ 重回帰分析の基礎：重回帰モデル、バイアス</li> <li>⑨ 重回帰分析の基礎：演習</li> <li>⑩ 重回帰分析の応用：ダミー変数、分散不均一性</li> <li>⑪ 重回帰分析の応用：演習</li> <li>⑫ 操作変数法：内生性の問題、操作変数、二段階最小二乗法</li> <li>⑬ 操作変数法：演習</li> <li>⑭ マッチング法：マッチング法、傾向スコア・マッチング</li> <li>⑮ マッチング法：演習</li> </ol>				
評価方法	<p>ルーブリック（50％）と習得度（50％）</p> <p>※ルーブリック評価：到達目標に関する理解度、授業参加態度・修学意欲</p>				
講義外での学習	<p>予習を必ずしてください。</p>				
履修上の注意事項	<p>本講義では、計量経済学の基礎と同時に統計ソフトを用いた分析する力を養います。そのため、2回に分けて手法の理解と演習を行いますので、必ず出席してください。</p> <p>統計解析の知識を持っていることが望ましい。</p>				
教材	<p>◆教科書：田中隆一『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』有斐閣(ISBN978-4-641-15028-7)</p> <p>◆参考書：適宜紹介する</p>				

科目名	ファイナンス特論	配当年次	1	単位数	2
科目区分	企業経営科目群	履修区分	選択		
教員名	吉田 高文	開講区分	前期		
授業の概要	<p><b>キーワード：キャッシュフロー、時間、リスク</b></p> <p>モジリアーニ、ミラー、シャープ、ショールズ、ファーマ等、ノーベル賞受賞者の理論研究に触れながら、企業経営に必要なファイナンスの体系的知識を学習する。学習内容は、MBA（経営学修士）の水準で理解すべきことがらとするが、ファイナンスの初学者にも配慮する。</p>				
到達目標 (ルーブリック評価項目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業ファイナンスの基礎的概念（NPV、CAPM、WACCなど）を理解する。</li> <li>・ キャッシュフロー計算を理解でき、実際に企業評価に応用できるようになる。</li> </ul>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 企業経営におけるファイナンスの重要性 企業経営におけるキャッシュフロー管理の重要性を理解する</li> <li>② キャッシュフロー計算 現在価値計算を理解する</li> <li>③ 投資決定（1） 正味現在価値（NPV）法を理解する</li> <li>④ 投資決定（2） 内部利益率（IRR）法などを理解する</li> <li>⑤ リスクとリターン リスクとリターンの性質を理解する</li> <li>⑥ 現代ポートフォリオ理論 現代ポートフォリオ理論（MPT）を学習し、リスク分散化効果を理解する</li> <li>⑦ 資本資産評価モデル（CAPM） 資本市場線（CML）から証券市場線（SML）の導出過程を理解する</li> <li>⑧ 資本コスト（1） 加重平均資本コスト（WACC）の求め方を理解する</li> <li>⑨ 資本コスト（2） 加重平均資本コスト（WACC）の計算を行う</li> <li>⑩ 企業価値評価（1） 評価アプローチを理解する</li> <li>⑪ 企業価値評価（2） 企業事例を用いて企業価値計算を行う</li> <li>⑫ 企業価値と資本構成 最適資本構成に関するモジリアーニ＝ミラーの理論（MM理論）を理解する</li> <li>⑬ オプション評価モデル（1） オプションを理解する</li> <li>⑭ オプション評価モデル（2） ブラック＝ショールズ式を理解する</li> <li>⑮ M&amp;A 日本および米国の敵対的買収事例を理解する</li> </ol>				
評価方法	<p>ルーブリック（50%）および期末考査（50%）によって評価する。期末考査は報告書または口頭試問、あるいはその両方によって行う。</p> <p>※ルーブリック評価：到達目標に関する理解度、授業参加態度・修学意欲</p>				
講義外での学習	ファイナンスの専門用語を学習しておくこと。				
履修上の注意事項	授業中に関数電卓を貸し出す。				
教材	<p>◆教科書：必要があれば、受講者と相談して決める。</p> <p>◆参考書：新井富雄・渡辺茂・太田智之『資本市場とコーポレート・ファイナンス』中央経済社、1999年。ISBN4-502-34902-X</p>				

科目名	経営管理特論	配当年次	1	単位数	2
科目区分	企業経営科目群	履修区分	選択		
教員名	兪 成華	開講区分	前期		
授業の概要	<p><b>キーワード：マネジメント、組織、日本的経営</b></p> <p>経営管理論は企業の経営資源や経営活動をどのように管理するかを問題としてとりあげている。本授業は、古典的管理論、日本的経営の2つのパーツから構成され、それぞれの分野について、基礎的知識や用語及び学術的位置づけを学習する。主に日本語の教科書や文献（英文）を熟読し、受講生とディスカッションを通して、経営管理に関する考察を深めていく。</p>				
到達目標 (ルーブリック評価項目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経営管理の諸領域に関する主要概念および基礎理論を正確に体系的に理解する。</li> <li>・ 経営管理における本質的な問題を発見する能力を身につける。</li> <li>・ 経営管理における新しい動きを考察する能力を身に付ける。</li> </ul>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ガイダンス</li> <li>② 古典的管理論 1 経営と組織</li> <li>③ 古典的管理論 2 組織論の基礎</li> <li>④ 古典的管理論 3 管理原則論と科学的管理法</li> <li>⑤ 古典的管理論 4 人間関係論</li> <li>⑥ 古典的管理論 5 モチベーション論</li> <li>⑦ 古典的管理論 6 リーダーシップ論</li> <li>⑧ 日本的経営 1 日本の経営の特徴と史的展開</li> <li>⑨ 日本的経営 2 The Decline of the Japanese System of Management (1)</li> <li>⑩ 日本的経営 3 The Decline of the Japanese System of Management (2)</li> <li>⑪ 日本的経営 4 ライフ・コミットメント</li> <li>⑫ 日本的経営 5 年功賃金と賃金システム</li> <li>⑬ 日本的経営 6 企業内労働組合</li> <li>⑭ 日本的経営 7 能力主義と成果主義</li> <li>⑮ 持ち帰り期末レポートの説明</li> </ol>				
評価方法	<p>ルーブリック（50%）と持ち帰り期末レポート（50%）により、総合的に評価する。  ※ルーブリック評価：到達目標に関する理解度、授業参加態度・修学意欲</p>				
講義外での学習	<p>講義では最近のトレンドや傾向を取り扱うので、その具体的なイメージをつかむために、新聞や雑誌等で企業経営関連の記事を点検して欲しい。</p>				
履修上の注意事項	<p>積極的に議論に参加すること。</p>				
教材	<p>◆教科書：特に指定はしない。 必要に応じてプリントを配布する。</p> <p>◆参考書：塩次喜代明・小林敏男・高橋伸夫『経営管理（新版）』有斐閣、ISBN-10: 4641123756  ステーブン P.ロビンズ『経営行動のマネジメント（新版）』ダイヤモンド社、ISBN-10: 4478004595  桑田耕太郎・田尾雅夫『組織論（補訂版）』有斐閣、ISBN-10: 4641124124  二村敏子『現代ミクロ組織論』有斐閣、ISBN-10: 4641086990</p>				



科目名	経営戦略特論	配当年次	1	単位数	2
科目区分	企業経営科目群	履修区分	選択		
教員名	光山 博敏	開講区分	後期		
授業の概要	<p><b>キーワード：</b> 持続的競争優位性、歴史経路依存性、アーキテクチャと技術戦略</p> <p>実践志向の強い経営戦略論を学ぶうえで重要なことは、単に理論モデルを習得するだけでなく、戦略論の根源的テーマでもある社会的、実務的重要性に即した形で網羅的且つ俯瞰的に経営戦略を理解することである。</p> <p>本講義では、指定の教科書を中心に文献の輪読を通じて加速度的にボーダーレス化が進むグローバル市場において、持続的競争優位を実現しうる戦略モデルがいかなるものなのかについて検討し、その本質を学ぶ。</p>				
到達目標 (ルーブリック評価項目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 持続的競争優位の実現に向けた技術戦略とアーキテクチャ理論を理解、説明できる。</li> <li>・ 経営戦略論の分析フレームワークを活かし、実践的問題解決力を身につける。</li> </ul>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ガイダンス (履修の心得)</li> <li>② 経営戦略に関する5つの考え方、戦略計画学派、創発戦略学派</li> <li>③ ポジショニング・ビュー、リソース・ベスト・ビュー</li> <li>④ ゲーム論的アプローチ、5つの戦略観がもたらす反省</li> <li>⑤ 3つの思考法、戦略的思考法の具体例-思考法を身につけるための見本例の紹介</li> <li>⑥ 顧客ダイナミクス、顧客の声に耳を傾けてはいけなとき</li> <li>⑦ 差別化競争の組織的基礎、競争を活用する戦略</li> <li>⑧ 先手の連鎖シナリオ、シナジーの崩壊メカニズム</li> <li>⑨ 選択と集中-創発的多角化戦略の問題点、組織暴走の理論、経験知と反省的学習</li> <li>⑩ 迷走した日本のもの造り論、「強い工場・強い本社」への道</li> <li>⑪ もの造りの組織能力、相性のよいアーキテクチャで勝負せよ</li> <li>⑫ アーキテクチャの産業地政学、中国との戦略的つきあい方</li> <li>⑬ もの造りの力を利益に結びつけよ</li> <li>⑭ もの造り日本の進路</li> <li>⑮ 経営戦略まとめ</li> </ol>				
評価方法	<p>プレゼンテーション内容の正確さと完成度(40%)、ディスカッションへの参加意欲と姿勢 (ルーブリック 20%)、期末レポート(40%)を総合して評価する。</p>				
講義外での学習	<p>経営戦略をより発展的に理解するため、専門書以外の背景知識向上に向けた書籍の読み込みを奨励する。</p>				
履修上の注意事項	<p>輪読ベースの講義特性上、全講義への出席が求められます。</p> <p>本講義では、教科書以外にも最低、週1~2冊の関連書籍の通読を求める。</p>				
教材	<p>◆<b>教科書：</b> 沼上幹『経営戦略の思考法』日本経済新聞出版社 藤本隆宏『日本のものづくり哲学』日本経済新聞出版社</p> <p>◆<b>参考書：</b> ガース・サローナー、ジョエル・ポドルニー、アンドレア・シェパード『戦略経営論』第2版 東洋経済新報社、 マイケル・A・ヒット、R・デュエーン・アイルランド『戦略経営論』改定新版 CENGAGE Learning</p>				

科目名	経営組織特論	配当年次	1	単位数	2
科目区分	企業経営科目群	履修区分	選択		
教員名	島田 善道	開講区分	前期		
授業の概要	<p><b>キーワード： 組織行動, 組織, 人</b></p> <p>経営学における基幹科目の1つである「経営組織論」にかんする基礎知識をもつ学生を対象に、組織行動に焦点を定め、その理論の展開をより深く広く学び、今日における経営課題に関して詳細に議論していきます。組織行動(Organizational Behavior: OB)とは、組織の中の人間行動を指し、組織やヒトの問題を取り上げる点に特徴があります。基本的な概念を再確認しつつ、国内外の組織行動に関する最先端の議論を俯瞰していきます。</p>				
到達目標 (ルーブリック評価項目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 過去の間行動の理解を助け&lt;理解&gt;, 将来の間行動を予測し&lt;予測&gt;, 間行動を変化させる&lt;統制&gt;, この3つのステップで組織行動を考えていくことができるようになることを目指します。</li> </ul>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 組織行動論とは何か</li> <li>② 個人の行動の基礎</li> <li>③ パーソナリティと感情</li> <li>④ モチベーション</li> <li>⑤ 個人の意思決定</li> <li>⑥ 集団行動の基礎</li> <li>⑦ チームとは</li> <li>⑧ コミュニケーション</li> <li>⑨ リーダーシップ</li> <li>⑩ パワーと政治</li> <li>⑪ コンフリクトと交渉</li> <li>⑫ 組織構造の基礎</li> <li>⑬ 組織文化</li> <li>⑭ 人材管理</li> <li>⑮ 組織変革と組織開発</li> </ol>				
評価方法	<p>ルーブリック (70%) , レポート(30%)により総合的に評価します。  ※ルーブリック評価：到達目標に関する理解度、授業参加態度・修学意欲</p>				
講義外での学習	なし				
履修上の注意事項	特になし				
教材	<p>◆<b>教科書</b>： S.P. ロビンス著 (高木晴夫訳) 『[新版]組織行動のマネジメントー入門から実践へ』ダイヤモンド社, 2009年。</p> <p>◆<b>参考書</b>：講義中に都度, 紹介します。</p>				

科目名	マーケティング特論	配当年次	1	単位数	2																																													
科目区分	企業経営科目群	履修区分	選択																																															
教員名	磯野 誠	開講区分	前期																																															
授業の概要	<p><b>キーワード： 戦略的マーケティング、競争戦略、戦略ドメイン</b></p> <p>本講義は、学部レベルでのマーケティングに関する基礎知識をもつ学生を対象に、全社レベルでマーケティングと他の経営職能・経営資源を連動させその市場対応を管理しようとする戦略的マーケティングに焦点を定め、それに関連する理論と応用を議論する。具体的には、競争戦略と需要対応、取引、戦略の統合、戦略ドメインを解説し、また戦略的マーケティングを実践する数社をケーススタディとして取り上げ、議論することでその応用の理解を深める。</p>																																																	
到達目標	<p>・戦略的マーケティングの考え方と関連する各種理論を理解し、企業経営を戦略的マーケティングの観点から分析できる。</p>																																																	
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>①</td> <td>イントロダクション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>マーケティングの役割と課題</td> <td><u>レポート課題1出題</u></td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>マーケティングの領域拡大と発展</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>戦略的マーケティングの基礎概念</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>ケーススタディ1</td> <td><u>レポート課題1提出</u></td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td>消費者市場の分析</td> <td><u>レポート課題2出題</u></td> </tr> <tr> <td>⑦</td> <td>競争の分析</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑧</td> <td>取引の分析</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑨</td> <td>ケーススタディ2</td> <td><u>レポート課題2提出</u></td> </tr> <tr> <td>⑩</td> <td>業界の発展の分析</td> <td><u>レポート課題3出題</u></td> </tr> <tr> <td>⑪</td> <td>競争戦略と需要創造</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑫</td> <td>取引の戦略</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑬</td> <td>ケーススタディ3</td> <td><u>レポート課題3提出</u></td> </tr> <tr> <td>⑭</td> <td>戦略の統合と戦略ドメイン</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑮</td> <td>現代マーケティングの新動向</td> <td></td> </tr> </table>					①	イントロダクション		②	マーケティングの役割と課題	<u>レポート課題1出題</u>	③	マーケティングの領域拡大と発展		④	戦略的マーケティングの基礎概念		⑤	ケーススタディ1	<u>レポート課題1提出</u>	⑥	消費者市場の分析	<u>レポート課題2出題</u>	⑦	競争の分析		⑧	取引の分析		⑨	ケーススタディ2	<u>レポート課題2提出</u>	⑩	業界の発展の分析	<u>レポート課題3出題</u>	⑪	競争戦略と需要創造		⑫	取引の戦略		⑬	ケーススタディ3	<u>レポート課題3提出</u>	⑭	戦略の統合と戦略ドメイン		⑮	現代マーケティングの新動向	
①	イントロダクション																																																	
②	マーケティングの役割と課題	<u>レポート課題1出題</u>																																																
③	マーケティングの領域拡大と発展																																																	
④	戦略的マーケティングの基礎概念																																																	
⑤	ケーススタディ1	<u>レポート課題1提出</u>																																																
⑥	消費者市場の分析	<u>レポート課題2出題</u>																																																
⑦	競争の分析																																																	
⑧	取引の分析																																																	
⑨	ケーススタディ2	<u>レポート課題2提出</u>																																																
⑩	業界の発展の分析	<u>レポート課題3出題</u>																																																
⑪	競争戦略と需要創造																																																	
⑫	取引の戦略																																																	
⑬	ケーススタディ3	<u>レポート課題3提出</u>																																																
⑭	戦略の統合と戦略ドメイン																																																	
⑮	現代マーケティングの新動向																																																	
評価方法	レポート課題のクオリティ（30点×3）、授業への積極性（10点）																																																	
講義外での学習	レポート課題とそのフィードバックに取り組む。																																																	
履修上の注意事項	※先修科目：特になし																																																	
教材	<p>◆教科書：嶋口允輝・石井淳蔵（1995）「現代マーケティング（新版）」有斐閣</p> <p>◆参考書：Kotler, Philip &amp; Keller, Kevin Lane（2014）Marketing Management</p>																																																	

科目名	流通特論	配当年次	1	単位数	2
科目区分	企業経営科目群	履修区分	選択		
教員名	竹内 由佳	開講区分	後期		
授業の概要	<p><b>キーワード：流通，商業，小売業，卸売業，パワー関係</b></p> <p>商業や流通といったものがなければ、私たちは食べ物や衣服、さらにはゲームや本などを手に入れることはほとんど不可能となるでしょう。すなわち、流通や商業は、私たち「消費者」と、食べ物や衣服を作った「生産者」との間を繋ぐ役割をしているということです。この授業では、流通や商業といった私たちの身近な「買い物」の一場面を担う領域に関して学んでいきます。そして、自身の修士論文等の研究成果に対して、この講義を通じて得られた知見をもとに自分なりの問題設定を行うことができることを目標とします。</p>				
到達目標 (ルーブリック評価項目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な事例や理論を通じて、商業、流通とは一体どのようなものであるかを理解できる。</li> <li>・商業、流通とは一体どのようなものであるかをわかりやすくかつ理論を用いて説明できる。</li> </ul>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ガイダンス：商業、流通の実例について、さらにこの講義で扱う内容についてざっくりと紹介します。</li> <li>②流通を読み解く視点：流通の担う機能について学びます。</li> <li>③流通における機能分担：流通機能の中でも特に、垂直的分化・統合に着目して学びます。</li> <li>④流通における組織間関係1：特にパワー関係と組織化について学びます。</li> <li>⑤流通における組織間関係2：特に製販提携と延期型流通について学びます。</li> <li>⑥小売業の行動とダイナミクス1：小売業態の発展とP B開発について学びます。</li> <li>⑦小売業の行動とダイナミクス2：商業集積や中小小売商の関係について学びます。</li> <li>⑧卸売業界の再編成と”機能強化”競争：卸売業について学びます。</li> <li>⑨これまでの復習および質疑応答：これまでの講義内容を復習し、質問等に答えていきます。</li> <li>⑩流通におけるICT活用の展開：流通におけるICT活用について学びます。</li> <li>⑪インターネット販売の可能性：インターネットが入ることで流通がどう変わるかについて学びます。</li> <li>⑫これまでの復習および質疑応答：これまでの講義内容を復習し、質問等に答えていきます。</li> <li>⑬流通と公共政策：流通と公共政策の関係について学びます。特に環境問題、公正競争との関係について着目します。</li> <li>⑭まちづくり：流通と公共政策の関係の中でも、まちづくりに着目して学びます。</li> <li>⑮これまでの復習および質疑応答：これまでの講義内容を復習し、質問等に答えていきます。</li> </ol>				
評価方法	成績は、ルーブリック（40%）、ミニテスト（30%）、期末レポート（30%）を総合して評価します。自分なりの言葉で難しい用語を説明できているかに重点を置きます。				
講義外での学習	これまで当たり前だと思っていたことについて常に疑問を持ちながら向き合ってみてください。				
履修上の注意事項	「マーケティング特論」も履修していただくと、より流通とマーケティングの違いが理解でき、自身の研究を考える際の一助になるかと思えます。				
教材	<p>◆教科書：『流通論をつかむ』（渡辺達朗・原頼利・遠藤明子・田村晃二共、有斐閣、2008年）、ISBN 978-4-641-17710-9。</p> <p>◆参考書：適宜紹介していきます。</p>				

科目名	財務会計特論	配当年次	1	単位数	2
科目区分	企業経営科目群	履修区分	選択		
教員名	柳 年哉	開講区分	前期		
授業の概要	<p><b>キーワード：</b> <u>国際財務報告基準（IFRS）、財務報告の概念フレームワーク、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（GAAP）</u></p> <p>本講義は、学部レベルの財務会計の知識を有する学生を対象に、国際財務報告基準（International Financial Reporting Standards-IFRS）の主要な論点を取り上げ、日本の会計基準との差異を理解することを主目的とする。さらに、IFRS に基づく財務諸表を作成している日本企業を取り上げ、会計処理の論点及び財務情報の開示項目を整理する。</p>				
到達目標 (ルーブリック評価項目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際財務報告基準の主要な論点を理解し、英文の財務諸表が理解できる。</li> <li>・ 簡単な英文の財務諸表が作成できる。</li> </ul>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 国際財務報告基準の概念フレームワークと基礎概念を理解する</li> <li>② 財務諸表の表示を理解する</li> <li>③ 収益の認識と測定を理解する</li> <li>④ 金融商品の認識と測定及び中止を理解する</li> <li>⑤ 有形固定資産・無形資産の会計を理解する</li> <li>⑥ リースの会計を理解する</li> <li>⑦ 減損の会計を理解する</li> <li>⑧ 税効果会計を理解する</li> <li>⑨ 引当金及び偶発債務の会計を理解する</li> <li>⑩ 企業結合の会計を理解する</li> <li>⑪ デリバティブとヘッジの会計を理解する</li> <li>⑫ 外貨換算の方法を理解する</li> <li>⑬ 会計上の変更及び誤謬の訂正の処理を理解する</li> <li>⑭ 国際財務報告基準による開示内容を理解する</li> <li>⑮ 全体のまとめ</li> </ol>				
評価方法	<p>講義で説明した内容の理解の程度と会計処理をロジカルに説明できるかに重点を置く。 ルーブリック（70%）、レポート（30%）で評価する。 ※ルーブリック評価：到達目標に関する理解度、授業参加態度・修学意欲</p>				
講義外での学習	<p>国際財務報告基準に関する原文及び英文の参考文献を参照して英文解釈の技術を高めてください。</p>				
履修上の注意事項	<p>毎回の授業で課題のレポートを印刷して持参すること。 先修科目：『財務会計』を修得しておくことが望ましい。</p>				
教材	<p>◆<b>教科書：</b> 向伊知郎著 『ベーシック 国際会計（第2版）』中央経済社 ISBN 978-4-502-30521-4</p> <p>◆<b>参考書：</b> Donald E. Kieso, Jerry J. Weygandt, Terry D. Warfield 著 『4 t h Edition Intermediate Accounting IFRS EDITION』</p>				

科目名	管理会計特論	配当年次	1	単位数	2
科目区分	企業経営科目群	履修区分	選択		
教員名	川崎 紘宗	開講区分	後期		
授業の概要	<p><b>キーワード：</b>    <b>コントロール マネジメント 経営戦略</b></p> <p>本講義は、学生が管理会計に関する大学院レベルの知識を習得することを目標としている。優れた管理会計システムを構築するためには、管理会計情報の作り手の立場のみならず、情報の利用者の立場にも立つ必要がある。そこで、本講義では、管理会計情報の作り方や分析方法を学ぶと同時に、マネジャーが管理会計情報に基づきどのように意思決定や判断を行い、さらに、業績管理を行うのかなどについて学んでいく。最新の管理会計の手法等も紹介する。</p>				
到達目標 (ルーブリック評価項目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 管理会計の主要論点を説明することができる。</li> </ul>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 商業簿記と工業簿記</li> <li>② 工業簿記と原価計算</li> <li>③ 原価計算と管理会計</li> <li>④ 全部原価計算と直接原価計算</li> <li>⑤ 科学的管理法と管理会計</li> <li>⑥ 1820年頃からの100年：多角化された組織に対するマネジメント・コントロール</li> <li>⑦ 1920年頃からの60年：レレバンス・ロストと日本の製造業の勃興</li> <li>⑧ ABCの誕生</li> <li>⑨ BSCの登場</li> <li>⑩ 有形資産のマネジメントからインタンジブルズのマネジメントへ</li> <li>⑪ 知的なインタンジブルズとレピュテーション資産に関連するインタンジブルズ</li> <li>⑫ BSCによるレピュテーションの管理</li> <li>⑬ 内部統制によるレピュテーションの向上</li> <li>⑭ CSRによるレピュテーション・マネジメントへの役立</li> <li>⑮ レピュテーション・リスクの測定と管理</li> </ol>				
評価方法	<p>毎回の課題報告の内容とその理解の程度、管理会計の基本的な全体像を理解しているかどうかにかんして重点をおく。</p> <p>ルーブリック（75%）と最終レポート（25%）で評価する。</p> <p>※ルーブリック評価：到達目標に関する理解度、授業参加態度・修学意欲</p>				
講義外での学習	<p>毎回の課題作成や予習・復習のために講義外で多くの学習時間が求められる。</p>				
履修上の注意事項	<p>毎回の授業で課題報告用の資料を印刷して持参すること。</p>				
教材	<p>◆<b>教科書</b>：櫻井道晴著『管理会計（第七版）』同文館出版  櫻井道晴著『コーポレート・レピュテーション 「会社の評判」をマネジメントする』中央経済社  鳥居宏史訳『レレバンス・ロスト 管理会計の盛衰』白桃書房</p> <p>◆<b>参考書</b>：伊藤 博著『管理会計の世紀』同文館出版  櫻井道晴著『原価計算』同文館出版  辻 厚生・河田 信訳『米国製造業の復活―「トップダウン・コントロール」から「ボトムアップ・エンパワメント」へ』中央経済社</p>				

科目名	経営法務特論	配当年次	1	単位数	2
科目区分	企業経営科目群	履修区分	選択		
教員名	中山 実郎	開講区分	前期		
授業の概要	<p><b>キーワード：</b> <u>組織の法、雇用の法、取引の法</u></p> <p>組織とビジネスの場を念頭に、企業経営に関連する法領域の知識の修得と実践について考究を深める。学習領域の中心を契約法、会社法、労働法に置き、事例・判例研究を通じて、組織の良好な運営や取引を安全、円滑、迅速に行うための諸制度について、その役割を理解し、実践する知識と技術を習得していく。</p>				
到達目標 (ルーブリック評価項目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既に修得した法知識を基に、事例・判例研究を積み重ねていくことで、判決文を正確に読み解くことができる。</li> <li>・経営における法務の役割とその重要性を理解し、法的な視点をもって、組織の問題点や課題を抽出する力を修得する。</li> <li>・商取引、会社組織、雇用の各分野に関する法令を中心に、それらの周辺領域を含めて、ビジネスの場で生じる諸問題に適宜対応できる法的解決力を養う。</li> </ul>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① イントロダクション 授業で扱う内容と進行について紹介する</li> <li>② 経営法務における事例・判例研究の意義と重要性、報告シートの作成について</li> <li>③ 商取引・契約の事例・判例研究① 契約の成立、解除</li> <li>④ 商取引・契約の事例・判例研究② 貸借</li> <li>⑤ 商取引・契約の事例・判例研究③ 不法行為</li> <li>⑥ 会社の事例・判例研究① 会社の法的性質：会社の営利性、社団性、法人性</li> <li>⑦ 会社の事例・判例研究② 株式、株主の権利</li> <li>⑧ 会社の事例・判例研究③ 会社の機関、株主総会</li> <li>⑨ 会社の事例・判例研究④ 会社の業務執行、取締役、取締役会</li> <li>⑩ 10. 雇用の事例・判例研究① 労働契約、採用、賃金、労働時間</li> <li>⑪ 11. 雇用の事例・判例研究② 就業規則</li> <li>⑫ 12. 雇用の事例・判例研究③ 職場の環境、安全配慮義務</li> <li>⑬ 13. 公正な競争ルール事例・判例研究① 独禁法関係</li> <li>⑭ 14. 公正な競争ルール事例・判例研究② 下請法関係</li> <li>⑮ 15. 公正な競争ルール事例・判例研究③ 不正競争防止法関係</li> </ol>				
評価方法	<p>授業の内容の理解の程度、とくに取上げた事案の内容、判旨を正しく理解しているかに重点を置く。ルーブリック(50%)とレポート他の課題(50%)との合計で評価する。  ※ルーブリック評価：到達目標に関する理解度、授業参加態度・修学意欲</p>				
講義外での学習	<p>毎回の予習と復習を励行すること。また、最新の重要判例、法改正や法律実務の動向等を確認するため、法律時報、ジュリスト、判例タイムスなど指示された文献は必ず目を通すこと。</p>				
履修上の注意事項	<p>判例・事例研究を主に進めていくため、履修に際し、民法1・2、企業法概論の3科目を学習していることが望ましい。</p>				
教材	<p>◆教科書：特に指定しない  ◆参考書：適宜紹介、指示する</p>				

科目名	経営統計特論	配当年次	1	単位数	2
科目区分	企業経営科目群	履修区分	選択		
教員名	高井 亨	開講区分	前期		
授業の概要	<p><b>キーワード： データ、統計解析、実証分析</b></p> <p>データに対して適切な統計分析をおこなうための知識および実践的技術の習得を目指す。講義前半ではデータの種類に応じ、適切にデータを要約する方法に触れる。具体的には、データの種類や分析者の問題意識に応じた視覚化の方法と統計量の選び方を学習する。中盤では入門レベルの統計学の内容を発展させ、より実践的な問題を解決するための推測統計手法について触れる。後半では社会科学において利用されることの多い回帰分析を、受講者自らがデータ分析をおこなうことを通じて習得する。なお本講義において扱う手法は基礎的なものが多く決して難しくはない。</p>				
到達目標 (ルーブリック 評価項目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な統計解析手法を十分に理解し、応用的な手法についても概要を把握する。</li> <li>・ 研究目的に応じて、適切な統計解析手法を選択できるようになる。</li> <li>・ 実証分析を自ら行うことができる。</li> </ul>				
授業計画	<p><u>第1部 データ分析の基礎</u></p> <p>①:データの種類 ②:1変数データの見方・読み方;多様な代表値と多様なグラフ表現 ③:2変数データ(量的データ)の見方・読み方;散布図の読み方と関係性の計量 ④:2変数データ(質的データ)の見方・読み方;クロス表と関連性の指標</p> <p><u>第2部 推測統計の基礎と実際</u></p> <p>⑤:推測統計の基礎(1)確率変数・期待値・分散・正規分布・大数の法則・中心極限定理・標本分布 ⑥:推測統計の基礎(2)推定と検定;母平均および母比率を例に ⑦:平均値の差の検定 ⑧:分割表の分析</p> <p><u>第3部 実証分析入門</u></p> <p>⑨:回帰分析 ⑩:重回帰分析 ⑪:ダミー変数や交絡変数を用いた重回帰分析 ⑫:二肢選択モデル ⑬:実証分析報告1 ⑭:実証分析報告2 ⑮:まとめ</p>				
評価方法	ルーブリック (15%)、受講態度 (15%)、各回の理解度 (20%)、実証分析報告 (50%) の割合で評価する				
講義外での 学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高校レベルの数学の復習。</li> <li>・ 毎回授業で学習した概念への理解を深めるために、各自が収集したデータを用いて統計分析をおこなう(毎回の課題)。</li> </ul>				
履修上の 注意事項	授業内でパソコンを用いた演習をおこなう。パソコンを持参すること。				
教材	<p>◆<b>教科書</b>：レジュメを配布する</p> <p>◆<b>参考書</b>：入門統計解析、倉田博史・星野崇宏、新世社</p>				



科目名	リサーチデザイン特論	配当年次	1	単位数	2
科目区分	企業経営科目群	履修区分	選択		
教員名	磯野 誠	開講区分	後期		
授業の概要	<p><b>キーワード： リサーチデザイン、因果推論、理論</b></p> <p>本講義は、修士論文を含む経営学系学術論文の作成の基礎となる、定性的および定量的調査方法を含むリサーチデザインについて、解説する。研究課題の設定、理論の選択、変数、因果推論、定性的調査の考え方、定量的調査の考え方、事例選択、事例研究による因果推論等を取り上げ、また具体的な論文例を用いてそれらにおいて採用されている課題、構成概念、理論、因果仮説、変数、調査方法、知見導出等を学ぶ。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リサーチデザインを理解し、修士論文の作成の仕方が分かるようになる。</li> </ul>				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>① イントロダクション</li> <li>② リサーチデザインとは</li> <li>③ リサーチデザインの基本形</li> <li>④ 変数</li> <li>⑤ 事例選択</li> <li>⑥ 因果関係</li> <li>⑦ 定量的因果推論</li> <li>⑧ 比較事例による因果推論</li> <li>⑨ 単独事例での因果推論</li> <li>⑩ 論文例1：先行研究、調査課題、仮説設定、調査結果、考察</li> <li>⑪ 論文例2：定量調査 <u>レポート課題1出題</u></li> <li>⑫ 論文例3：定量調査</li> <li>⑬ 論文例4：定性事例研究 <u>レポート課題1提出；レポート課題2出題</u></li> <li>⑭ 論文例5：定性事例研究</li> <li>⑮ 総合考察 <u>レポート課題2提出</u></li> </ul>				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 計2回のレポート課題のクオリティ（70%）</li> <li>2 毎回の授業に対する積極性（30%）</li> </ul>				
講義外での学習	レポート課題とそのフィードバックに取り組む。				
履修上の注意事項	<p>レポート課題のクオリティ（45点×2）、授業への積極性（10点）</p> <p>※先修科目：特になし</p>				
教材	<p>◆<b>教科書</b>：田村正紀（2006）「リサーチデザイン」白桃書房</p> <p>◆<b>参考書</b>：川崎剛（2010）「優秀論文作成術」勁草書房 佐藤郁哉（2015）「社会調査の考え方」上・下 東京大学出版会</p>				

科目名	地域経済特論	配当年次	1	単位数	2
科目区分	地域経営科目群	履修区分	選択		
教員名	佐藤 彩子	開講区分	前期		
授業の概要	<p><b>キーワード：地域経済、都市、農村</b></p> <p>本特論では、大都市、地方中枢都市、県庁所在地都市、地方中小都市、都市からの地理的近接性に乏しい中山間地域や離島等、我が国を構成する多種多様な地域に焦点を当て、それらの地域の歴史や人口構造、産業構造、就業構造等を読み解くことによって、その地域が抱える課題を深く考察することを目的とする。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域経済に関する論文を批判的に読むことができる。</li> <li>・個々の地域を分析する上で必要なデータを収集し、図表や地図等を用いて的確に表現することができる。</li> </ul>				
授業計画	<p>① オリエンテーション：授業計画を提示し、授業で扱う内容をおおまかに紹介する。</p> <p>②～④ 大都市圏の現状と課題</p> <p>(1) 東京大都市圏：3 大都市圏の中での東京大都市圏の位置づけとその特徴、課題を学ぶ。</p> <p>(2) 名古屋大都市圏：3 大都市圏の中での名古屋大都市圏の位置づけとその特徴、課題を学ぶ。</p> <p>(3) 大阪大都市圏：3 大都市圏の中での大阪大都市圏の位置づけとその特徴、課題を学ぶ。</p> <p>⑤～⑥ 地方中枢都市圏の現状と課題</p> <p>(1) 北海道・宮城県：地方中枢都市圏の中での北海道・宮城県の位置づけとその特徴、課題を学ぶ。</p> <p>(2) 広島県・福岡県：地方中枢都市圏の中での広島県・福岡県の位置づけとその特徴、課題を学ぶ。</p> <p>⑦～⑫ 地方圏の現状と課題</p> <p>(1) 東北地方：東北地方の全国的な位置づけを把握し、人口構造、産業構造、就業構造等の観点から地域間比較を通して各県の特徴と課題を検討する。</p> <p>(2) 北陸地方：北陸地方の全国的な位置づけを把握し、人口構造、産業構造、就業構造等の観点から地域間比較を通して各県の特徴と課題を検討する。</p> <p>(3) 中国地方：中国地方の全国的な位置づけを把握し、人口構造、産業構造、就業構造等の観点から地域間比較を通して各県の特徴と課題を検討する。</p> <p>(4) 四国地方：四国地方の全国的な位置づけを把握し、人口構造、産業構造、就業構造等の観点から地域間比較を通して各県の特徴と課題を検討する。</p> <p>(5) 九州地方：九州地方の全国的な位置づけを把握し、人口構造、産業構造、就業構造等の観点から地域間比較を通して各県の特徴と課題を検討する。</p> <p>(6) 沖縄県：沖縄県の全国的な位置づけを把握し、その特徴と課題を検討する。</p> <p>⑬～⑮ 中山間地域や離島の現状と課題</p> <p>(1) 中国地方の中山間地域①：中国地方の中山間地域の特徴と課題を概観する。</p> <p>(2) 中国地方の中山間地域②：中国地方の中山間地域における課題解決の具体的な取り組みを知る。</p> <p>(3) 中国地方の離島：中国地方の離島の特徴と課題を概観し、当該地域における課題解決の具体的な取り組みを知る。</p>				
評価方法	<p>ルーブリック(25%)、ディスカッションへの参加(25%)、期末レポート(50%)により評価する。</p> <p>※ルーブリック評価：到達目標に関する理解度、授業参加態度・修学意欲</p>				
講義外での学習	<p>普段から、多様な地域に興味を持ち、それらを扱った新聞記事や論文等を積極的に読み、批判的読解力や論理的思考力を養うこと。</p>				
履修上の注意事項	<p>授業の内容を単に理解するだけでなく、得られた知識から、該当地域が抱える課題を論理的に説明できるようにすること。それを踏まえて、ディスカッションを行う。</p>				
教材	<p>◆教科書：適宜資料を配布する。</p> <p>◆参考書：授業時に紹介する。</p>				

目 名	国際経済特論	配当年次	1	単位数	2
科目区分	地域経営科目群	履修区分	選択		
教員名	連 宜萍	開講区分	前期		
授業の概要	<p><u>キーワード：自由貿易協定（FTA）、地域経済連携協定（EPA）、TPP、RCEP</u></p> <p>経済自由化、グローバル化、情報化等により、国際環境は大きく変化している。この講義は国際経済に関連する理論知識を解説したうえで、アジア諸国の経済発展、社会問題、多国籍企業の行動等をさまざまな文献を通して読み解いていく。</p>				
到達目標 (ルーブリック評価項目)	国際経済にかかわる問題を理解し、自ら関心の課題を発見できる力を身に付ける。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 国際経済の理論基礎の確認、授業の進め方の説明</li> <li>② 21世紀型貿易とメガFTAの潮流</li> <li>③ TPPの概要と評価</li> <li>④ 日EU・FTAの意義</li> <li>⑤ RCEPの意義と課題</li> <li>⑥ 日中韓FTA交渉の戦略的重要性</li> <li>⑦ ASEAN経済共同体の課題</li> <li>⑧ ASEANとメガFTA—AEC、RCEP、TPP</li> <li>⑨ 中国のFTA戦略と「一带一路」構想</li> <li>⑩ メガFTAとインドの対応</li> <li>⑪ 韓国のFTA戦略</li> <li>⑫ 日本企業のサプライチェーンとFTA</li> <li>⑬ TPP貿易とRCEP貿易の展望</li> <li>⑭ FTAの関税削減効果と企業の対応</li> <li>⑮ 日本の輸出入におけるTPPの影響</li> <li>⑯ 【復習】アジア諸国をめぐるFTA問題提起</li> </ol>				
評価方法	産業、企業を含み、世界経済の動向に関する論文を正確に理解できるかに重点を置く。ルーブリック（30%）、毎回提出の小レポート（30%）、プレゼンテーション（40%）				
講義外での学習	指定の教科書を毎回1章読み、要点をA4一枚にまとめ翌週の授業に提出すること。				
履修上の注意事項	指定教材だけでなく、関連する新聞記事を毎回提出のレポートに織り込むことが望ましい。				
教材	<p>◆教科書：メガFTAと世界経済秩序：ポストTPPの課題（石川幸一ほか、勁草書房、ISBN978-4326504312）</p> <p>◆参考書：必要時に適宜に指示する。</p>				

科目名	東アジア地域特論	配当年次	1	単位数	2
科目区分	地域経営科目群	履修区分	選択		
教員名	相川 泰	開講区分	後期		
授業の概要	<p><b>キーワード： 中国、東アジア国際関係、1970年代以降</b></p> <p>中国、および、その近隣諸国・地域の一部の政治・法律・経済・社会・自然環境・人文地理・国際関係などについて、相互関係や比較を含め、典型的・特徴的と考えられる事例や事項を取り上げ、多角的かつ専門的に講義する。1970年代以降について書かれたテキストを選び、指定部分について報告を受けたうえで、適宜、他の資料などにより補足情報を提供する。なお、講義は日本語で行い、中国語の知識を前提とするものではないが、必要と判断したときには原語資料を配布・提示し、解説する場合もありうる。</p>				
到達目標 (ルーブリック評価項目)	冷戦後半期以降の中国の社会、日中関係、朝鮮半島情勢、東アジア国際関係について、多角的な視野から特徴や変化を説明できるようになる				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 科目趣旨と進め方、「東アジア地域」について</li> <li>2. 中国および東アジア諸国・地域の概要</li> <li>3. 米中和解から日中国交正常化へ、毛沢東時代の終了</li> <li>4. 日中平和友好条約と改革開放の開始</li> <li>5. 光州事件、歴史決議、改革開放初期の葛藤</li> <li>6. 民主化の波、(第二次・六四)天安門事件と冷戦終結</li> <li>7. 南巡講話、天皇訪中、社会主義市場経済</li> <li>8. 香港返還、アジア経済危機、韓国と台湾の政権交代</li> <li>9. 中国 WTO 加盟、対北朝鮮外交、韓流と反動、反日と嫌中</li> <li>10. 「世界第二位の経済大国」「東アジアの先進国」をめぐる</li> <li>11. 大国化した中国と世界</li> <li>12. 多民族国家としての中国</li> <li>13. 中国の環境問題と政策・対策</li> <li>14. 中国の環境 NGO と国際協力</li> <li>15. 中国と東アジア諸国・地域の未来</li> </ol> <p>※受講者の反応や要望、時事動向その他の事情により、適宜内容を変更することがある</p>				
評価方法	毎回、報告を求め、その出来具合を評価対象とする。ルーブリック (100%)				
講義外での学習	毎回、事前準備してくること。				
履修上の注意事項	正当な理由なく準備してきていないことが続いた場合には受講・単位取得の意志なしと判断する。				
教材	<p>◆教科書：高原明生、前田宏子『開発主義の時代へ』岩波新書のほか随時、指示する。</p> <p>◆参考書：国分ほか『日中関係史』有斐閣アルマのほか随時、紹介する。</p>				

科目名	経営史特論	配当年次	1	単位数	2
科目区分	地域経営科目群	履修区分	選択		
教員名	谷口 謙次	開講区分	後期		
授業の概要	<p><b>キーワード：</b></p> <p>経営組織の発展や企業経営のイノベーションに関わる経営史および経済史の基本理論や知識を学ぶことを目的とする。産業革命以降、企業組織は急速に発展し、多くの企業家がイノベーションを引き起こしてきた。しかし、それは経済的背景が存在したことを忘れてはならない。経営の発展は経済のそれと相互に関連していることを学ぶ。また、ヨーロッパ・アジア（日本を含む）・アメリカ各地域に関する経済史・経営史の書籍や論文を読んでいき、地域ごとの特徴なども考察する。</p>				
到達目標 (ルーブリック評価項目)	1. 経済史や経営史に関する議論や概念を理解し、関連する知識を習得する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経営史並びに経済史に関する諸理論に関する書籍または論文を読む①。</li> <li>2. 経営史並びに経済史に関する諸理論に関する書籍または論文を読む②。</li> <li>3. 経営史並びに経済史に関する諸理論に関する書籍または論文を読む③。</li> <li>4. 経営史並びに経済史に関する諸理論に関する書籍または論文を読む④。</li> <li>5. 経営史並びに経済史に関する諸理論に関する書籍または論文を読む⑤。</li> <li>6. アメリカにおける企業経営と経済の関係を論じる書籍または論文を読む①。</li> <li>7. アメリカにおける企業経営と経済の関係を論じる書籍または論文を読む②。</li> <li>8. アメリカにおける企業経営と経済の関係を論じる書籍または論文を読む③。</li> <li>9. アメリカにおける企業経営と経済の関係を論じる書籍または論文を読む④。</li> <li>10. アメリカにおける企業経営と経済の関係を論じる書籍または論文を読む⑤。</li> <li>11. 日本における企業経営と経済の関係を論じる書籍または論文を読む①。</li> <li>12. 日本における企業経営と経済の関係を論じる書籍または論文を読む②。</li> <li>13. 日本における企業経営と経済の関係を論じる書籍または論文を読む③。</li> <li>14. 日本における企業経営と経済の関係を論じる書籍または論文を読む④。</li> <li>15. 日本における企業経営と経済の関係を論じる書籍または論文を読む⑤。</li> </ol>				
評価方法	講義時の発表内容や質疑応答などで評価する。 ルーブリック（100%）				
講義外での学習	講義中に挙げた参考文献を読むこと。				
履修上の注意事項	事前の準備や講義時の議論など積極的な参加を期待する。				
教材	<p>◆教科書： 講義時に随時指示する。</p> <p>◆参考書： 講義時に随時指示する。</p>				

科目名	地域経営特論	配当年次	1	単位数	2
科目区分	地域経営科目群	履修区分	選択		
教員名	山口 和宏	開講区分	後期		
授業の概要	<p><b>キーワード： 内発的發展 地域活性化 持続可能性</b></p> <p>我が国が抱える人口減少・高齢化社会の問題は、特に「地方」と呼ばれる地域で深刻さが増しており、地域の再生を目指す取り組みを推進し、これらの地域を活性化させることが、近年の重要な課題の一つとなっている。</p> <p>そこで、本特論では、地域経営や地域活性化にかかる取り組みの在り方やその考え方、地域経営に関わる多様な主体の在り方等、地域の持続的な展開を目指すための主要課題について、主に文献や論文、事例研究をもとにしたディスカッションを通じて学習する。</p>				
到達目標 (ルーブリック評価項目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域問題に関わる論文の内容を正確に理解することが出来る。</li> <li>・ 地域特性に応じた地域経営の在り方・考え方について検討するための基礎的な知識と分析視角を身につける。</li> <li>・ 地域における問題解決策についての自分なりの考え方を提示できる。</li> </ul>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 講義ガイダンスとして、講義の進め方や地域経営にかかる枠組みの説明を行うとともに、講義内で取り扱う文献等についての解説を行う。</li> <li>② 地域問題の視点と実態について学ぶ。</li> <li>③ ポストグローバル化時代の地域について学ぶ。</li> <li>④ 地域に係る政策の展開と到達点について学ぶ。</li> <li>⑤ 内発的地域づくりについて学ぶ。</li> <li>⑥ 地域運営組織の制度内容と実態について学ぶ。</li> <li>⑦ 地域における外部人材の活用・人材育成について学ぶ。</li> <li>⑧ 地域活性化と関係人口について学ぶ。</li> <li>⑨ 地域経営とブランド・マーケティングについて学ぶ。</li> <li>⑩ シティプロモーションの考え方について学ぶ。</li> <li>⑪ 地域内資源の活用の在り方について学ぶ。</li> <li>⑫ 地域と観光との関係について学ぶ。</li> <li>⑬ 地域における SDGs の取り組みについて学ぶ</li> <li>⑭ 都市と農村の関係について学ぶ。</li> <li>⑮ 都市と農村の持続可能性について学ぶ</li> </ol>				
評価方法	<p>ルーブリック (60%)、講義内でのレポート報告内容 (20%) ならびに、講義におけるディスカッションへの参加状況 (20%) で評価する。</p>				
講義外での学習	<p>配布された資料に関して、関連する書籍や論文についても目を通すなど、事前準備に心がけること。</p>				
履修上の注意事項	<p>講義終了後に次回の講義で扱う資料を配布するので、報告者を含め全講義参加者が精読しておくこと。</p> <p>報告者は講義前に、レポートを人数分用意しておくこと。</p>				
教材	<p>◆教科書： 必要な資料について配布する。</p> <p>◆参考書： 「田園回帰がひらく新しい都市農村関係」 筒井一伸著 ナカニシヤ出版 (2021)</p> <p>「内発的農村発展論」 小田切・橋口編著 農林統計出版 (2018)</p> <p>「新版地域政策入門」 家中・藤井・小野・山下編著 ミネルヴァ書房 (2019)</p> <p>「シティプロモーション 2.0」 河井孝仁著 第一法規 (2020)</p> <p>その他、適宜、講義内で紹介する。</p>				

科目名	農業経営特論	配当年次	1	単位数	2
科目区分	地域経営科目群	履修区分	選択		
教員名	山口 創	開講区分	前期		
授業の概要	<p><b>キーワード： 農業経営体、農業政策、6次産業化</b></p> <p>農業就業者の高齢化、農作物貿易の自由化など、我が国の農業を取り巻く環境は厳しさを増している。本講義では、農地の保全と利用、担い手育成、農業生産法人、集落営農組織、農村女性と農業、6次産業化、農商工連携、地域ブランド化等をテーマに講義し、我が国の農業が抱える諸問題や地域農業の発展の方策について検討する。また、農業経営分野において各自が関心を持つテーマを対象に論文レビューをおこない、その問題の構造や解決に向けた方策について議論する。</p>				
到達目標 (ルーブリック評価項目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の地域農業が抱えている問題や農業政策の展開について理解する。</li> <li>・農業経営研究の研究動向を理解する。</li> <li>・地域農業の発展方向について考えるための基礎を身に付ける。</li> </ul>				
授業計画	<p>① オリエンテーション 講義の概要や到達目標を解説する。</p> <p>② ～③ 農業経営概論 農業の特性、農業生産と土地、食料の需要と供給、食料自給率、農業の経営組織、家族経営、農業生産と家族労働、我が国の農業政策の動向</p> <p>④ ～⑥ 地域農業の担い手像 集落営農、農業法人等による農地の保全・利用、我が国の人材育成システム、求められる農業経営者像と能力獲得、アントレプレナーシップ、農村女性と農業</p> <p>⑦～⑩ 農業経営の多角的展開 6次産業化、農商工連携、地域ブランド（伝統野菜、在来品種、GI等）</p> <p>⑪～⑮ 論文レビュー 各自が関心をもつテーマを選び、論文レビューをおこなう。レビューの内容は授業内で発表し、問題の構造や今後必要とされる施策について議論する。</p>				
評価方法	<p>講義で説明した内容や輪読する文献の内容を正しく理解できているかを重視する。 ルーブリック 50%、授業における発表（論文レビュー）50%で評価。</p>				
講義外での学習	<p>毎週、論文を指定するので講義までに読み込んでおくこと。</p>				
履修上の注意事項	<p>特になし。</p>				
教材	<p>◆教科書： なし ◆参考書：講義のなかで紹介する。</p>				

科目名	コミュニティビジネス特論	配当年次	1	単位数	2
科目区分	地域経営科目群	履修区分	選択		
教員名	倉持 裕彌	開講区分	前期		
授業の概要	<p><b>キーワード： 社会課題 ソーシャルビジネス NPO</b></p> <p>コミュニティビジネスと呼ばれる事業は、過疎地等において生活課題を解決する手段として期待されている。ただし、生活課題の範囲が広範に設定されているため、いわゆるスモールビジネスやローカルビジネスまでもがコミュニティビジネスとして位置づけられている状況にある。本講義ではこうした状況を生み出す背景を掘り下げ、課題を明らかにするとともに、過疎地等において求められる持続的なコミュニティビジネスについて理解を深める。なお、実際に現地を訪問し、経営者に対するインタビュー調査を行うことを予定している。</p>				
到達目標 (ルーブリック評価項目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティビジネスが求められる背景から定義、現状および将来の課題まで、体系的に理解する。</li> <li>・具体的な事例の検討を通して、コミュニティビジネスが果たしうる機能や役割について理解を深める。</li> </ul>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション 講義の概要を説明する。</li> <li>② コミュニティビジネスとは コミュニティビジネスを取り上げている文献や雑誌におけるコミュニティビジネスの定義や位置づけを比較検討する。</li> <li>③ コミュニティビジネスの背景 コミュニティ、過疎、NPOなどのキーワードについて歴史的な視点から整理する。</li> <li>④ コミュニティビジネスの分析枠組み1 コミュニティビジネスの役割や機能に着目した研究アプローチについて理解する。</li> <li>⑤ コミュニティビジネスの分析枠組み2 コミュニティビジネスの持続性や経営手法に着目した研究アプローチについて理解する。</li> <li>⑥ コミュニティビジネス事例（国内）1 ソーシャルビジネスの事例を取り上げ、その特徴や課題について理解する。</li> <li>⑦ コミュニティビジネス事例（国内）2 過疎地におけるコミュニティビジネスの事例を取り上げ、特徴や課題について理解する。</li> <li>⑧ コミュニティビジネス事例（国内）3 都市部におけるコミュニティビジネスの事例を取り上げ、特徴や課題について理解する。</li> <li>⑨ 鳥取県内のコミュニティビジネス概況 鳥取県内のコミュニティビジネスの事例を取り上げ、文献等を用いて調査する。</li> <li>⑩ ⑪コミュニティビジネスインタビュー調査1（2コマ分） 県内のコミュニティビジネス事業者に対してインタビュー調査を行う。</li> <li>⑫ ⑬コミュニティビジネスインタビュー調査2（2コマ分） 県内のコミュニティビジネス事業者に対してインタビュー調査を行う。</li> <li>⑭ インタビュー調査結果報告 インタビュー調査の結果を報告しディスカッションする。</li> <li>⑮ まとめ</li> </ol>				
評価方法	<p>ルーブリック（30%）2回程度のレポート（40%）および調査報告書等（30%）により評価する。</p> <p>※ルーブリック評価：到達目標に関する理解度、授業参加態度・修学意欲</p>				
講義外での学習					
履修上の注意事項					
教材	<p>◆教科書：なし</p> <p>◆参考書：適宜紹介する。</p>				



科目名	地域社会学特論	配当年次	1	単位数	2
科目区分	地域経営科目群	履修区分	選択		
教員名	倉持 裕彌	開講区分	後期		
授業の概要	<p><b>キーワード： コミュニティ 人口減少 地域再生</b></p> <p>人口減少と高齢化が進む山間地の集落維持や衰退した商店街の再生を検討するためには、活動の担い手の特徴や社会的ネットワークなど社会的な視点を踏まえることが重要である。本特論はまず、世代、社会階層、組織など社会学の基本的な考え方を講義する。そのうえで、都市化や消費社会化といった観点から、これまでの地域社会の変容についても学んでいく。</p>				
到達目標 (ルーブリック評価項目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世代、社会階層、組織など社会学の基本的な考え方を理解する。</li> <li>・ 地域社会の課題について量的、質的双方のアプローチから把握できるようになる。</li> </ul>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション 講義の概要や課題について解説する。</li> <li>② 地域社会とは 地域や社会といった基本的な単語を掘り下げ、理解を深める。</li> <li>③ 社会学入門① 社会学の入門書を読む</li> <li>④ 社会学入門② 社会学の入門書を読む</li> <li>⑤ 農村社会学～都市社会学 1 農村社会学が取り上げた問題や構築した理論について学ぶ。</li> <li>⑥ 農村社会学～都市社会学 2 都市社会学が取り上げた問題や構築した理論について学ぶ。</li> <li>⑦ 地域社会における諸課題 1 過疎地や地方都市における課題について学ぶ。</li> <li>⑧ 地域社会における諸課題 2 大都市部や郊外における課題について学ぶ。</li> <li>⑨ 地域社会の課題と地域社会学 1 地域社会学が取り上げる現代の課題について、アプローチや分析手法について学ぶ。</li> <li>⑩ 地域社会の課題と地域社会学 2 地域社会学が取り上げる現代の課題について、アプローチや分析手法について学ぶ。</li> <li>⑪ 文献講読 1 地域社会学の基礎的な文献を読む。</li> <li>⑫ 文献講読 1 地域社会学の基礎的な文献を読む。</li> <li>⑬ 文献講読 2 地域社会学の最新の文献を読む。</li> <li>⑭ 文献講読 2 地域社会学の最新の文献を読む。</li> <li>⑮ まとめ</li> </ol>				
評価方法	<p>ルーブリック（30％）レポート等課題（3回程度）（70％）により評価する。  ※ルーブリック評価：到達目標に関する理解度、授業参加態度・修学意欲</p>				
講義外での学習					
履修上の注意事項	<p>※先修科目：なし</p>				
教材	<p>◆教科書：なし</p> <p>◆参考書：適宜紹介する。</p>				

科目名	経営情報システム特論	配当年次	1	単位数	2
科目区分	経営情報科目群	履修区分	選択		
教員名	齊藤 明紀	開講区分	前期		
授業の概要	<p><u>キーワード：IT 調達、情報システム、システム運用</u></p> <p>全ての団体において IT 活用は必須な時代となった。一方 IT システムの調達、活用に失敗して多大な損金を計上する事例は後を絶たない。本講では企業・団体・自治体が IT システムの調達、活用、保守を行う上での課題について論じる。IT システムの調達(購入あるいは設計・製作)、活用、保守、廃棄の各段階について、非 IT 設備と比較しながら概観する。続いて国内外の IT システムに関する失敗事例をいくつか取り上げ、そのシステム構造や背景、失敗の原因などについて論じる。また先進成功事例についても分析する。</p>				
到達目標 (ルーブリック評価項目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織における情報システムの導入・運用・保守・管理についての基礎知識を得る。</li> <li>・IT 調達における種々の要注意点を知る。</li> </ul>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 企業情報システム概説</li> <li>② インターネットの技術特性</li> <li>③ 経営の IT 活用の歴史</li> <li>④ システム化成功事例 1</li> <li>⑤ システム調達</li> <li>⑥ システム活用事例</li> <li>⑦ システムの保守</li> <li>⑧ システムの廃棄とレガシー</li> <li>⑨ 事例研究： 特許庁</li> <li>⑩ 事例研究： みずほ銀行</li> <li>⑪ 事例研究： みずほ銀行</li> <li>⑫ システム化成功事例 2</li> <li>⑬ 更新失敗事例</li> <li>⑭ 政府調達や自治体調達について</li> <li>⑮ 総括</li> </ol>				
評価方法	<p>講義で説明した内容の理解の程度、基礎的知識を正しく理解しているかどうかに重点をおく。</p> <p>ルーブリック (40%) 小レポート 60%)</p>				
講義外での学習	事例調査などの予習と復習が必要である。				
履修上の注意事項	学部 2016 カリキュラムの計算機の基礎、情報システム基礎、情報倫理、インターネット を履修済みであることが望ましい。				
教材	<p>◆教科書： なし</p> <p>◆参考書： システム障害はなぜ起きたか〜みずほの教訓、日経コンピュータ(編) システム障害はなぜ二度起きたか みずほ、12 年の教訓、日経コンピュータ(編) 連載 動かないコンピュータ、日経コンピュータ</p>				

科目名	クラウド活用特論	配当年次	1	単位数	2
科目区分	経営情報科目群	履修区分	選択		
教員名	齊藤 明紀	開講区分	後期		
授業の概要	<p><b>キーワード：</b> クラウドコンピューティング、IaaS, PaaS, DaaS</p> <p>近年、IT 機器というハードウェア資産を購入し保有する従来のスタイルから、資産を保有することなく計算処理サービスの利用料を支払うを購入するクラウドへの移行が盛んに行われている。本講義では、IaaS, PaaS, DaaS などクラウドサービスの形態ごとにその特徴について論じる。またクラウドの特性とそれが産むの利点と欠点について論じる。またクラウドと BCP(事業継続計画)やセキュリティの関連についても取り上げる。さらに具体的なパブリッククラウドサービスの特性についても調査し考察する。</p>				
到達目標 (ルーブリック評価項目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ IaaS, PaaS, DaaS などの形態とその特質を知る。</li> <li>・ クラウドの技術的側面についてビジネス応用という観点から基礎的知識を持つ。</li> </ul>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ネットワークと情報システム</li> <li>② 保有から利用への流れ</li> <li>③ IAAS</li> <li>④ PAAS</li> <li>⑤ SAAS</li> <li>⑥ DAAS</li> <li>⑦ クラウドサービス実例 1</li> <li>⑧ クラウドの長所と欠点</li> <li>⑨ システム化成功事例</li> <li>⑩ クラウドサービス実例 2</li> <li>⑪ クラウドサービス実例 3</li> <li>⑫ クラウドと信頼性・可用性</li> <li>⑬ クラウドとセキュリティ</li> <li>⑭ BCP</li> <li>⑮ クラウドサービスの動向</li> </ol>				
評価方法	<p>講義で説明した内容の理解の程度、基礎的知識を正しく理解しているかどうかに重点をおく。</p> <p>ルーブリック (40%) 小レポート 60%)</p>				
講義外での学習	事例調査などの予習と復習が必要である。				
履修上の注意事項	学部 2016 カリキュラムの計算機の基礎、情報システム基礎、情報倫理、インターネット を履修済みであることが望ましい。				
教材	<p>◆教科書： なし</p> <p>◆参考書： 2020 年を見据えたグローバル企業の IT 戦略、入江宏志著、インプレス、連載 クラウドコンピューティングのしくみ、ソフトウェアデザイン、技術評論社</p> <p>クラウドの未来：超集中と超分散の世界、小池良次著、-講談社、</p>				

科目名	要求工学特論	配当年次	1	単位数	2
科目区分	経営情報科目群	履修区分	選択		
教員名	染谷 治志	開講区分	後期		
授業の概要	<p><b>キーワード：</b> 要求分析, 要求仕様, 要求仕様記述言語(UML)</p> <p>「要求定義」とは、これから開発しようとするシステムあるいはソフトウェアが何をすべきなのかを決めることである。本講義では、要求工学の基礎知識の理解と実務レベルの技術修得を目標とする。</p> <p>まず、システム開発ライフサイクルにおける要求定義の位置づけと要求定義に関する基本的な概念を理解し、要求定義の各プロセス（要求獲得、要求記述、要求確認と要求管理）の技法を修得する。そして、UML(Unified Modeling Language)を用いたソフトウェアやシステムの要求仕様のモデリング(見える化)演習を実施し、要求仕様のモデリング技法を習得する。</p>				
到達目標 (ルーブリック評価項目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要求工学に関する諸概念や諸技術の基礎が修得できていること。</li> <li>・簡単なビジネスシステム仕様のUML記述が習得できていること。</li> </ul>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① イントロダクション(システム開発と要求定義)</li> <li>② 【I-1：要求】システム開発ライフサイクルにおける要求定義の位置づけ</li> <li>③ 【I-2：要求】要求定義プロセスモデルの概要とその特徴</li> <li>④ 【II-1：要求獲得】要求獲得の基本概念（要求獲得プロセスモデル）</li> <li>⑤ 【II-2：要求獲得】要求獲得方法（情報収集，問題分析，要求分析）</li> <li>⑥ 【II-3：要求獲得】要求獲得手法（ユースケース分析法，オブジェクト指向分析法）</li> <li>⑦ 【III-7：要求記述】ソフトウェア要求仕様書の概要</li> <li>⑧ 【III-8：要求記述】要求言語（自然言語，形式言語，図形言語）</li> <li>⑨ 【IV-1：その他の技術】要求確認（レビューとシミュレーション，コスト見積り）</li> <li>⑩ 【IV-2：その他の技術】要求管理（要求仕様書の管理，要求変更管理）</li> <li>⑪ 【要求定義演習：UMLモデリング】テーマ「集合で整理する」</li> <li>⑫ 【要求定義演習：UMLモデリング】テーマ「分類・分割・統合して整理する」</li> <li>⑬ 【要求定義演習：UMLモデリング】テーマ「ビジネス活動を記録する」</li> <li>⑭ 【要求定義演習：UMLモデリング】テーマ「一連のビジネス活動を記録する」</li> <li>⑮ 要求分析/要求定義に関わる最新技術の動向</li> </ol>				
評価方法	<p>講義内容の理解度を確認するレポート(4回実施，到達目標の到達度を確認するレポート)の内容を重視して評価する。レポート(60%)，ルーブリック(40%)</p> <p>※ルーブリック評価：到達目標に関する理解度、授業参加態度・修学意欲</p>				
講義外での学習	<p>既存の手法を個別のプロジェクトに適応させる技術やセキュリティを始めとする非機能要求の獲得技術など、本講義で取り上げない技術について先進的な書籍や論文などで自主学習すること。</p>				
履修上の注意事項	<p>特になし。</p>				
教材	<p>◆教科書：(1) 要求工学概論：大西監修，妻木・白銀著，近代科学社 (ISBN978-4-7649-0372-2)</p> <p>(2) UMLモデリングレッスン：平澤著，日経BP社 (ISBN978-4-8222-8349-0)</p> <p>◆参考書：(1) 要求定義の基本と仕組み：佐川著，秀和システム (ISBN978-4-7980-2522-3)</p> <p>(2) UMLモデリング入門：児玉著，日経BP社 (ISBN978-4-8222-8358-2)</p>				

科目名	プロジェクト・マネジメント特論	配当年次	1	単位数	2
科目区分	経営情報科目群	履修区分	選択		
教員名	齊藤 哲	開講区分	後期		
授業の概要	<p><b>キーワード：PMBOK、情報システム開発、要求定義</b></p> <p>プロジェクトとは、独自のプロダクトやサービスなどを創造するために行われる有期の活動である。プロジェクト・マネジメントとは、そのプロジェクトの要求を満たすために、知識や技法をプロジェクトの活動に適用することである。本科目は、プロジェクト・マネジメントに関する知識体系である PMBOK (Project Management Body of Knowledge) の理解を深め、プロジェクト・マネジメント技術について論じていく。特に、情報システムの開発プロジェクト等の事例を通じて、実践的なプロジェクト・マネジメントの知識および技法を習得する。</p>				
到達目標 (ルーブリック評価項目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクト・マネジメントの知識体系や技法を理解する</li> <li>・具体的な事例の検討を通して、小規模なプロジェクトをマネジメントする基礎的な能力を身につける</li> </ul>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① プロジェクトの定義</li> <li>② 情報システム開発プロジェクト：システムの要件定義、システム開発プロセス</li> <li>③ PMBOK (Project Management Body of Knowledge) の概要</li> <li>④ プロジェクトのライフサイクルと組織</li> <li>⑤ プロジェクトマネジメント・プロセス</li> <li>⑥ プロジェクト・ステークホルダー・マネジメント</li> <li>⑦ プロジェクト・スコープ・マネジメント</li> <li>⑧ プロジェクト・スケジュール・マネジメント</li> <li>⑨ プロジェクト・コスト・マネジメント</li> <li>⑩ プロジェクト品質マネジメント</li> <li>⑪ プロジェクト資源マネジメント</li> <li>⑫ プロジェクト・コミュニケーション・マネジメント</li> <li>⑬ プロジェクト・リスク・マネジメント</li> <li>⑭ プロジェクト調達マネジメント</li> <li>⑮ まとめ</li> </ol>				
評価方法	<p>講義の内容や取り上げた事例の内容の理解度を確認するレポート(3 回程度)に重点をおいて評価する。ルーブリック(40%) レポート(60%)</p> <p>※ルーブリック評価：到達目標に関する理解度、授業参加態度・修学意欲</p>				
講義外での学習	<p>普段から、新聞、雑誌などで報じられるプロジェクトの成功・失敗事例に興味を持って内容を考察すること。</p>				
履修上の注意事項	<p>特になし。</p>				
教材	<p>◆教科書：特に指定しない。教員が作成した教材を使用する。</p> <p>◆参考書：必要に応じて、講義内で紹介する。</p>				